

南北朝時代：南北朝廷の争い

吉野山は、今では静かな地域ですが、南北朝時代（1336-1392）の一時期、戦に見舞われました。

14 世紀になり、後醍醐天皇は当時実権を握っていた武家から、天皇に実権を取り戻そうと激しい戦いをおこされました。その後、後醍醐天皇は武家政権に対抗し、吉野で朝廷をひらきました。その後 4 代にわたって吉野に天皇が存在していました。

金峯山寺は、吉野の朝廷を経済的に、また軍事的にも支援しました。そのために、しばしば戦火に見舞われ、蔵王堂の南に立っていた二天門など、金峯山寺にあったいくつかの建物が幾度となく焼失することとなりました。